

<ひとこと> あけましておめでとうございます。本年もあいネットをよろしく願いいたします。皆さまにとって本年が素晴らしい年となりますように。

中核地域生活支援センター

連絡協議会

毎月開催している中核地域生活支援センターの定例会へ、あいネットは準会員として出席しています。また、柏市と同じく中核市である船橋市でも総合相談窓口「さーく」が設置され、今年より参加予定です。

中核事業も県単独事業として、7年経過しました。各圏域で地域性を持ちながら、必要な相談機関として市民や市町村から一定の信頼を得てきた7年でした。

この間、厚労省・社会援護局では「生活支援戦略」の中で総合相談支援センター（仮称）構想が打ち出され、中核センター的な総合相談の有効性や必要性への理解が国レベルでも進んできているといえます。中核センターでは、内閣府からの委託でデータ分析を行っている北海道総研（HIT）からの依頼による検証事業として、データの提供を行い、アセスメントツールへの意見や相談機能としての役割の分析などに役立つ予定です。その他に各中核センターの母体法人では、さらに地域に必要な資源としての模索もしています。例えば、障害者の相談が比較的多いこともあり、障害者虐待防止センターの時間外対応としての委託を受けたところ、基幹型障害者相談支援センターを受けたところなど。自立支援法での相談センターもできたところで、相談機関が確実に増えていくことにより、相談をする側にとっては選択肢が増えるという面もあれば、その役割が重なるよ

うに見えてくるなど、実は相談する側にとってはわかりにくいことにもなりかねません。地域での相談機関同士の横のつながりや切磋琢磨が必要不可欠となります。柏市においても基幹型障害者相談支援センター構想があります。その構想では、あいネットは市へ、センターへつなぐ機関とされています。ワンストップというルールを持ちながら、つなぐことの意味を改めて考えてみたいと思います。



映画「隣る人」



あいネットの母体である社会福祉法人生活クラブ風の村では、2014年8月に設立予定の児童養護施設建設に向けたプロジェクトが進行中です。そのプロジェクトの一環として、法人関係者や地域住民に向けた自主上映会がありました。児童養護施設・・・字面だけでしか知らない世界に少しでも触れたい、という思いから参加しました。

映画「隣る人」は、ある児童養護施設の日々の暮らしを収めたドキュメンタリー映画です。様々な理由から親と一緒に暮らせない子どもたちと、そこで働く保育士たちの日常を『淡々と』綴っています。保育士たちは子どもたちと寄り添い、一緒にご飯を食べ、遊び、抱きしめ、同じ布団で眠ります。この作品に音楽やナレーションは一切ありません。そのため揺れ動く子どもたちの心や、保育士たちの葛藤がストレートに伝わってきます。作中に、配置換えで施設を去る職員にすがりつき、子どもが「ママーー！」と泣き叫ぶ（絶叫する）シーンがあります。絆を奪われた子どもが、やっと築けた絆を再び引き裂かれる姿を通して、隣る人で居続ける難しさを考えさせられました。

上映後に君津市にて自立援助ホームを運営している、NPO法人人力舎の高橋さんのお話があり、以下の言葉が印象的でした「児童養護施設の子どもたち、特に虐待を受けた子どもたちは、心の扉を閉ざしています。その扉は、内側にしか取っ手がついていません。私たちは、唯一あいている穴から、匂いと音と食事を入れ続けて、子どもたちが扉を開けてくれるのを待つしかありません」

新年明けまして
おめでとうございます

昨年中は大変お世話になりました。本年もどうぞよろしく

おねがいました。



永桶 静佳
白田 東吾
川野 優
中野 さおり
阿曾 乃里子
吉尾 和彦
佐々木 誠子

◇こちらのコーナーへ掲載希望の方は、あいネット（電話：04-7165-8707 FAX：04-7165-8709）まで◇

講演名	日時	場所	費用	申込み	問合せ先他
特定非営利活動法人ウィズ柏 性スキル講座 第4回 デートDVってな～に！ 講師：グループSEC（地域で性共育を作る会） 代表 木野 麗子氏	平成25年 2月24日（日） 14:00～16:00	特定非営利活動法人 ウィズ柏事務所内 柏市柏 5-8-16-B-2F	1名につき 300円	事務局へ 連絡	特定非営利活動法人ウィズ柏 事務局 TEL：04-7100-8640 FAX：047167-8270 メール：w-kashiwa1@jcom.one.ne.jp
第4回障がいのある子の居場所フォーラム テーマ：地域で障がいのある子を見かけますか？ パネリスト：松井宏昭（自閉症サポートセンター）井野口典子（NPO こどもスペース柏）高橋京一（柏市しこだ児童センター）松清智洋（柏市民活動センター）	平成25年 2月21日（木） 13:30～16:00	柏市中央公民館 5階講堂	無料	しこだ児童 センター 電話 04-7145-25 22	特定非営利活動法人 自閉症サポートセンター TEL&FAX：04-7105-7299 メール：js-center@jcom.home.ne.jp

フードバンクちば



「フードバンクちば」は、品質には問題のない廃棄される食品や食材を引きとり、千葉県内の施設や（支援機関を通じて）生活困窮者へ無償で提供する活動を行っています。食品ロスを削減しながら、新しい食のリサイクル活動をしています。

フードバンクの食べ物はどこへ送っているのですか？

福祉施設や当事者団体、炊き出しなどの支援を行っている団体、地域の支援団体を通じて、個人の生活困窮者宛に食品を送っています。

フードバンクを利用するにはどうすればいいのですか？

フードバンクは食べ物が無くて困っている方であればどなたでも利用できます。

詳しくはあいにットも含めた福祉相談・支援機関にご相談していただくか、フードバンクちばまでご連絡ください。

利用に関して、特に回数制限はしていませんが、個人から直接申し込むのではなく、福祉相談・支援機関の窓口から申し込んでもらうようにしてもらっています（個人支援の場合）。団体の場合はフードバンクちばまでご相談ください。

フードバンクの食べ物はどのようなものを送っているのですか？

お米や缶詰など、生鮮食品以外の常温で保管できる、品質に問題の無い賞味期限内のものを送付しています。

どのようなところから食品を引きとっているのですか？

千葉県内の食品メーカーや、流通企業、災害備蓄品を持つ企業、個人の方などから食品を寄贈していただいています。

あいにットでも、支援でフードバンクを利用させていただきました。お米や乾物食品、調味料など約10日分が入った段ボールをすぐに届けていただきました。アレルギーなどで食事制限がある場合は、配慮した食品が送られてきます。食品が余っていると言われている日本ですが、一方でその日の食事にも困っている方が多いのも現状です。余った食品の有効活用にもなりますし、とてもよいシステムだと思います。

フードドライブについて

個人のご家庭で不要な食品を、フードバンクちばと県内諸団体のご協力のもと回収し、いただいた食品を責任を持って福祉施設や支援団体を通じた生活困窮者にお配りする活動です。個人の方から寄贈頂ける食品は、バラエティに富んでおり、生活困窮者の方に大変喜ばれています。

寄付いただきたい食品

穀類（お米、麺類、小麦）／缶詰や瓶詰、のり、豆などの保存食品や乾物／調味料や食用油／インスタント、レトルト食品／飲料／お中元やお歳暮などのギフトパック

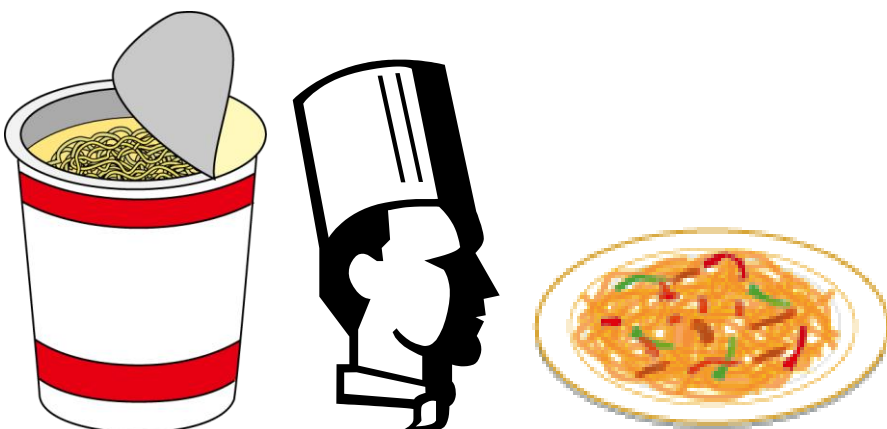
注意いただきたい点

- ①賞味期限が明記されていてかつ1カ月以上あるもの
- ②常温で保存が可能なもの
- ③未開封であるもの
- ④破損で中身が出ていないもの
- ⑤お米は常識の範囲内で古くないもの

受取窓口

フードバンクちば

他県内各所（千葉市・佐倉市・印西市・八千代市社会福祉協議会、（社）千葉県労働者福祉協議会、NPO 法人カフェバルコニーの家、ワーカーズコープちば、白井地域福祉事業所しいの木）



～お問い合わせ先～
 <住所>
 〒263-0023 千葉市稲毛区緑町 1-25-11 コーポ立花 101
 <TEL & FAX>
 043-375-6804（平日 9:00～17:00） FAX 043-242-8900
 <メール&ホームページ>
 fbchiba@jigyoudan.com
 http://fbchiba.ko-me.com

